



2017 年 3 月 8 日 (水) 定例会講演要旨

## 尺八の世界

手稲稲穂在住

中西尺八工房代表 中西 無童 様

学生の時楽器が好きでギターやトランペットをサークルでやっていましたが、洋楽器は人気があり競争でした。そこで「よりよい音」を求めて和楽器の道に入りました。

熊本で尺八の製作を本格的に学び 30 代で独立、以来「秀奏」の名で 40 年になります。

尺八を初めて吹くと、「スー」「スー」と音になりません。一週間くらいで音らしくなるといいます。尺八は一尺八寸、54 センチ前後の「真竹」で、表に四つ、裏に一つの穴が開けられている楽器なので音が足りないといいますが、そこで指で二分の一又は、三分の一押さえて音域を広げて演奏する、顎(あご)を上下させて高音、低音を吹き分るなど、大変難しい楽器だといわれています。



素材となる尺八は九州の北半分から本州の南半分くらいに自生している竹で、日本特有の竹材は数に限りがあり、しかも割れ易いので選定が大変難しいといわれています。

真竹は、3 年から 5・6 年のものを選び、一本の竹から一本の尺八を作ります。一本の「真竹」を半分に切断し、ウルシやトノコで肉厚を調整して音を整える。口の当たるところはふやけてくるので「水牛」や「象牙」を使って造ります。

竹は割れ易い素材なので道具を使うのは穴を開けるときだけで、あとは全て素手で制作します。制作する「真竹」は 10 年以上自然乾燥させ、ねじれるだけねじれたものを選ぶため数が少なくなり、僅かな竹しか残りません。それだけに「秀奏」の尺八は 20 万～30 万円くらいになるのです。(これでやっとな食べていけるそうです)

尺八は乾燥に弱いのでビニール袋に入れて保管する。大切に使うと割れずに相当長く使える楽器だといわれています。

北海道ではメンテナンスを含め、生業としている人は恵庭の友人と中西さんの二人だけだといわれています。

小学校で洋楽器の授業に和楽器も取り入れられることを願っています。

数曲の演奏を交えながら一時間程の講演を聴いていた会員からの感想は「私たちの年齢になると和楽の世界がだんだん心地よく聞こえてくるようになりました、どことなく落ち着くのは歳のせいなのか、日本人の血なのかと感想が寄せられていました。

(文責 : 佐々木)

### 次回の予定

2017 年 5 月 10 日(水)

時間 18:15

「移動する地名」

渡辺 隆 会員

区民センター

会議室

## 手稲の歴史資料館建設に当たっての構想 (私案)

### 手稲の資料館、青写真

手稲郷土史研究会  
茂内 義雄会長

#### 加賀百万石前田農場

- ・手稲前田
- ・後志共和
- ・渡島木古内

#### 北日本飛行学校

- なぜ軽川に飛行学校が
- ・当時の雄姿と  
パイロットの運命
- ・札幌の飛行場

#### 山口運河

- ・運河遺構と活用
- ・岡崎文吉の人物像
- ・山口運河の歴史

#### 手稲鉱山の地質と鉱床

- ・手稲鉱山の鉱石
- ・手稲鉱山の遺構
- ・手稲鉱山の絵手紙



#### 手稲の温泉

- ・光風館
- ・藤之温泉
- ・藤の湯
- ・瀧の沢温泉
- ・宿泊者と当  
時の世相

#### 手稲と文学

- ・作品に見える  
手稲の描写
- ・校歌と手稲

構想を提案する手稲郷土史研究会 茂内会長

#### 交通

- ・鉄道
- ・道路

#### 道内有数の牧場地帯、数々の農場

- ・前田・極東・稲積・曲長・町村
- ・塩野谷・三谷・竹内 各農場
- ・道内の酪農界
- ・当時の農具・道具

#### 白石城主

##### 片倉小十郎家旧家臣

- ・入植の経緯
- ・入植当時の検地野帖
- ・片倉家に関する子孫の思い

#### 北海道造林合資会社

- ・近藤新太郎
- ・登山道と動植物
- ・山とスキー、オリンピック

#### 新川・土抗川・河川

- ・排水の歴史
- ・治水・湿地
- ・温暖化・異常気象
- ・防災

## 一年を振り返って

### 手稲区「郷土資料館」の新設を

手稲郷土史研究会  
渡部 孝次 副会長

この地に住む子供たちにとっては手稲がふるさとです。「ふるさとの歴史を学び」「ふるさとに愛着を持ち」「ふるさとに誇りを持つ」そんなことを体感できる施設が必要でないでしょうか。子供たちのふるさとづくりの第一歩として、手稲区に「郷土史料館」を作りたいと考えています。



昭和 42 年に手稲町が札幌市と合併し、44 年に合併を記念し郷土の資料館として、現在の地(西区西町南 21)に「手稲記念館」が開設されました。その後、昭和 47 年、札幌市が政令指定都市に移行するのに伴い、手稲町は西区へ編入され、さらに平成元年には西区から分区し手稲区となり現在に至っています。

これまで手稲区連合町内会協議会及び手稲郷土史研究会等を中心に、手稲区内への「郷土資料館」の新設等を検討してきました。しかし、高齢化したボランティア頼みの労力だけでは不可能のため、幅広く区民有志を集い「手稲郷土資料館新設推進協議会」を結成し、長年の懸案となっている郷土資料館の新設を、札幌市の協力を得ながら取り組んでいきたいと考えています。

#### 《当面の事業内容(案)》

1. 手稲郷土資料館新設推進協議会の設立
2. 札幌市(手稲区)への新設要請活動
3. 郷土資料館新設の気運醸成のための広報活動
4. 各地の郷土資料館の実態と利用状況等の調査
5. 各連合町内会・団体・企業等への協力要請
6. 手稲郷土資料館新設のための応援団結成
7. 新しい手稲郷土資料館のイメージ構築

## 手稲コミセンの「手稲人講座」

### 聴講 1,661 人記録し閉幕、5 月から装い新たに再開へ

手稲郷土史研究会 一ノ宮 博昭 副会長

平成 25 年 5 月 21 日から毎月、手稲コミセンで開催してきた「手稲人が語る手稲人のための手稲の話」(通称・手稲人講座)は、さる 3 月 21 日、最終回となる第 47 回例会を経て、いったん幕引きとなりました。この間の聴講者は延べ 1,661 人(事務局調べ)を数え、郷土史研究会の知名度を広げることができたと自負しています。

最終回のテーマは「手稲鉱山ものがたり」。この回に限って演者が2人となり、前半は「80年の歴史と終焉」を林俊一エコマネジメント(株)前手稲事業所長、後半を「暮らし、娯楽そして夢」と題し一ノ宮が担当しました。聴講者は過去最高の63人でした。

会員には説明の必要もないのですが、昨年9月28日、区民センターで開いた「手稲鉱山ものがたり」の焼き直しとなりました。林さんは数々のデータを駆使、同鉱山が全国的に見て屈指の優良鉱山だったことを説明、一ノ宮は両親や近隣住民から聞き覚えた記憶を披露、現在の鉱山跡は社宅の土台や石垣程度しか残っていない廃墟ですが、新幹線の手稲トンネルが足下を通り、この搬出鉱石を調べることで、地球生成のナゾに迫ることができる宝の場になると結びました。

計47回の講師は48人になりました。講座では毎回、参加者からアンケートを取っており、あの話をもう一度聞いてみたいとの希望が多かった「札幌の奥座敷・光風館」(上仙学さん)、「手稲山の義経埋蔵金秘話」(一ノ宮)は、同じ切り口で再演しました。

また、テーマを変え、複数回にわたって講演をお願いしたケースも多々ありました。お名前を列挙すると(順不同)【2回】野村 武雄さん、三国 勲さん、上仙 学さん、斎藤 隆夫さん、鈴木 清士さん、佐藤 至さん、菅原 直さん、土谷 聖史さん 【3回】村元 健治さん 【5回】一ノ宮とといった方々でした。大変ご苦労様でした。

少々弁解がましいのですが、一ノ宮が突出して出演回数が多くなったのは、予定していた演者がご家庭やお仕事の都合で、あるいは体調不良のため出演間近になってリタイヤし、世話役としては講座を休むわけにもいかず、やむなくピンチヒッターとしてリリーフした結果なので、ご理解願います。

講座の演者は、郷土史研で発表されたデータをコミセンに持ち込み、事務局長の裁量で決定したものであることを改めてお断りしておきます。

いずれの講話も優劣をつけがたいものばかりですが、聴講者のアンケートに印象深い記述があったので、代表的な感想を披露します。



日本人の心に焼き付いて忘れがたいのは、なんといっても戦争体験です。演者は自分の言葉で熱心に語り掛けました。たとえば**満州開拓団と満人秘話**(平木 重男さん)「**ポップ屋30年の思い出**」(佐藤 至さん)「**本道空襲と札幌**」(菊地 慶一さん)です。



平木さんは軍人として旧満州に駐屯していたとき、ソ連軍の猛攻に遭遇、軍隊としての組織行動ができなくなり、友人と図って脱走、果てしない荒野を逃げ回り、ときに現地人に化身して食べ物を調達、九死に一生の体験を重ねながら帰国しました。

また、佐藤さんは樺太で終戦の混乱に巻き込まれ、小学校卒業の体験もないまま北海道に引き揚げ、むしろを下げただけの粗末な掘っ建て小屋の生活を体験、努力の甲斐あって国鉄の指導機関士になりました。ことばもわからないのに、ロシア人の子供と遊んだ記憶があるとといいます。

菊地さんは、米軍による本道空襲の実態に視点を置き、根室、室蘭などで、いたいけな子供が大勢犠牲になった実態を記録しました。圧巻はなんといっても「**祖父と篠路歌舞伎**」(大沼靖男さん)でした。



大沼さんの祖父は、篠路開拓の始祖で、初代村長です。開拓農民に楽しみを与えるのは歌舞伎しかない決意、自ら芸名を名乗って主演を続け、より確実な演技と台詞をと東京などに出向いて資料収集に奔走、今日の基礎を築きました。ふだん歌舞伎の醍醐味に触れる機会も少ないだけに、独特の節回りで舞台の台詞をほうふつとさせた雰囲気は、会場を魅了させました。「ドスコイ」「ドスコイ」の相撲甚句も出色でした。「すすきの逸話」(梶本隆さん)のお話も、薄幸の芸奴たちのきらびやかな衣装の裏側を見た感じがして、たいへん好評でした。

講座は4月を休講とし、5月から★手稲おもしろ散歩」と改題、再度登場します。

「手稲おもしろ散歩」は、毎月一回、平成30年4月まで連続開催の予定です。

5月「手稲の歴史 お宝発見」(茂内義雄さん)。

6月「手稲に住んで43年」(永井道允さん)が内定しています。

今後ともよろしくご支援、ご協力をお願いいたします。